

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社生産日本社都田工場第2棟	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市北区新都田1丁目106	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年8月28日
敷地面積	3,930㎡	作成者	古橋昌二
建築面積	1,897㎡	確認日	2023年8月28日
延床面積	3,596㎡	確認者	古橋昌二



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	向かいの建物は住宅地だが敷地の周りが植栽で囲まれているため周りの環境と馴染んでいる。	その他 特になし
Q1 室内環境	評価対象外	Q2 サービス性能 更新間隔が内装仕上げ材20年以上、空調給湯配管も上位2種以上で40年以上となっており長く使用することができる。
Q3 室外環境(敷地内)		植栽が多く生物環境の保全に取り組んでいる。
LR1 エネルギー	LED照明を採用している。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を使用し水資源に配慮している。
		LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪場、駐車場を確保している。導入路は交差点を避け周辺道路への渋滞緩和に値する。

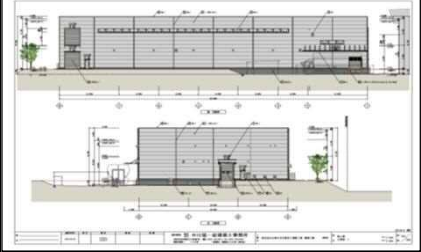
■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社生産日本社都田工場第2棟	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市北区新都田1丁目106	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年8月28日
敷地面積	3,930 m ²	作成者	古橋昌二
建築面積	1,897 m ²	確認日	2023年8月28日
延床面積	3,596 m ²	確認者	古橋昌二



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記+②以外の 86%
④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

SDG	スコア
3(保健)	2.6
4(教育)	2.0
5(ジェンダー)	2.0
6(水・衛生)	1.9
7(エネルギー)	1.9
8(経済・雇用)	1.8
9(イノベーション)	1.5
11(都市)	1.8
12(生産・消費)	2.2
13(気候変動)	1.9
15(陸上資源)	1.4
17(実施手段)	2.2

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	向かいの建物は住宅地だが敷地の周りが植栽で囲まれているため周りの環境と馴染んでいる。	その他 特になし
Q1 室内環境	評価対象外	Q3 室外環境(敷地内) 植栽が多く生物環境の保全に取り組んでいる。
LR1 エネルギー	LED照明を採用している。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪場、駐車場を確保している。導入路は交差点を避け周辺道路への渋滞緩和に値する。
Q2 サービス性能	更新間隔が内装仕上げ材20年以上、空調給湯配管も上位2種以上で40年以上となっており長く使用することができる。	
LR2 資源・マテリアル	省水型機器を使用し水資源に配慮している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	株式会社生産日本社都田工場第2棟建築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.8 /5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつつ

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------	-----------	-------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目		
		得点		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		3.4		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④床ビニル床シート20年、壁EP30年、天井石膏ボード25年。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地は植栽で囲われており生物環境の保全に取り組んでいる。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 特になし ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型機器を用いている。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		3.0	
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		3.8
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上 Q-3 3 3.1 ⑲			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		3.0	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) 特になし ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑬温熱環境悪化の改善) 特になし 	Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出 2 ⑶ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ④ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑬ 温熱環境悪化の改善			